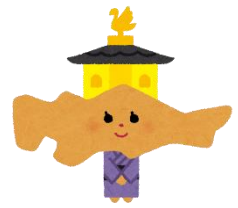


京の町並の巻

京都といえば世界的にも有名な観光地。長い歴史に裏打ちされた京都の町は、都市化が進んだとはいえ、その町並の一部は、至る所にいかにも古都といった風情を残しています。ところが、この由緒ある光景も次第に失われつつあり、何とかこの町並の風情を後世に残していこうということで、京都市では、「古都景観条例」というきまりを定めています。これはおもに高層建築物や、原色を使った派手な看板や広告塔などを規制しようというものです。これによって31m以上のビルやマンションは建てることができなくなり、赤色系の派手と見なされるような色の看板なども出せなくなりました。オレンジ色の看板でおなじみの牛丼吉野屋も、この条例に従って白地に黒文字の看板を作ったのですが、それがまるで葬儀屋のようだということで、苦肉の策として、普通の看板とは逆に“YOSHINOYA”のアルファベットの部分だけにオレンジの帯を入れたということです。その他にも、派手な原色を使った看板は規制を受けるため、見慣れた絵柄でも色彩の違うものを目にすることと思います。コンビニやコインパーキングの看板も地味な色や白色になっているものが多く、普段生活している感覚で見ると若干違和感をもつかもかもしれません。



赤地に黄文字のMが目印のマクドナルドの看板も、文字部分はそのままで、地の色が茶色や白に変えられています。京の町を歩いていると見つかるかもしれません。ちなみに、マクドナルドの省略形は関東と関西では違っているようで、東京では“マック”が一般的ですが、関西では“マクド”と呼ぶそうです。(ちなみにケンタッキーは“ケンチキ”だそうで…) 関東と関西の違いは他にも、駅のエスカレーターで急ぐ人のために空けておくのは東京が右側、関西では左側が多かったり、団体がお世話になる観光バスの号車も、東京では1号車、2号車と続きますが、関西では3・2・1と、数字の大きい号車が先頭になったりします。たしかにこの方が団車で何台も連なる場合などは、全部の台数がすぐにわかって便利ですね。

ところで、もう数十年前になりますが、京都の景観のことで話題になったのは、何をかくそう町の玄関口となる京都駅ビルでした。すでに、近代建築技術の粋を結集した立派な駅ビルが建っているのですが、これは建設が決定してから町中が大騒ぎ、建設推進派は「世界的文化遺産の町・京都の玄関口にふさわしい」と主張、一方反対派は「景観が台無しになる」・「デザインが古都のイメージに似合わない」と真っ向から対立。結果的に駅ビルは建設されたのですが、その姿は清水寺の舞台からがいちばんよく見えるといいます…。さてさて、その光景は人々の目にどう映っているのでしょうか…。

